

金銭管理ゲームによる障がい者への消費者教育 —現役消費生活相談員グループの取り組み—

武田 咲枝 Takeda Sakie NPO消費者支援グループひめまる代表

愛媛県東温市・松前町・砥部町消費生活相談員。愛媛県金融広報アドバイザー。消費生活相談窓口と高齢者見守りネットワークとの連携による高齢者の消費者被害防止にも積極的に取り組む。

消費者教育 実践事例集

現役消費生活相談員の協働

当団体は、愛媛県内自治体の現役消費生活相談員(以下、相談員)を中心に2014年11月に結成された消費者教育・啓発グループです。

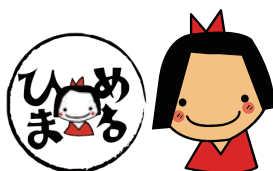
きっかけは、相談員の共通の悩みである、消費者教育・啓発予算が少ない、やる気はあるが相談業務で消費者教育・啓発をする余裕がない、使える教材がないといった問題をみんなの知恵と経験で解決しようと考えたことでした。県内自治体では、1人で相談業務に当たる相談員が多いのですが、声をかけたところ10名の賛同が得られ、活動予算を得るために、消費者団体のNPO法人えひめ消費者ネット内に「啓発グループひめまる」を結成しました(図1)。

主な活動としては、手作りで消費者教育(啓発)教材を制作し、それを使用した啓発講座や出前授業等を行っており、消費者被害の未然防止を図っています。さまざまな対象者に向けた教材を毎年制作し、メンバーの所属する自治体等で活用されています。

2018年6月には現役相談員を中心とする13名で「NPO消費者支援グループひめまる」を設立し、松山市へのNPO登録および、愛媛県中予地方局見守りネットワークへも消費者団体登録しました。さらに、同年6月から愛媛大学教育学部を中心として小・中・高校・大学教員、

図1

グループのロゴマーク(左)とオリジナルキャラクター「ひめまるこちゃん」(右)



関係機関、NPO等で結成された「えひめ消費者教育研究会」とも連携・協働し、SDGs教材の制作、普及活動にも参加しているところです。

現場の声から誕生した 「家計管理ゲームⅡ」

2016年6月、当団体は障がい者を対象とした消費者教育教材の「家計管理ゲーム」を制作しました。2017年9月には卓上版の「家計管理ゲームⅡ」(以下、ゲーム)として改良し、消費者教育支援センターの消費者教育教材資料表彰2018で優秀賞を受賞しました。本稿ではこのゲームによる消費者教育について紹介します。

このゲームが誕生したきっかけは、えひめ障がい者就業・生活支援センターや砥部町保健センター(以下、両センター)から、「障がい者のための金銭管理講座をやってほしい」との依頼を受けた際、講座をより実践的な内容にするためゲームを考案しようと決めたことでした。

作成に当たり、両センターの現場スタッフから、障がい者の金銭管理状況を聞き取ったところ、

- ①2カ月分の障害年金を1カ月で使ってしまう。
 - ②全部使い切ってしまうと、「貯金」をしない。
 - ③お菓子やジュースをしばしば買っている。
 - ④家族が金銭管理をしており、障がい者本人が金銭管理の経験がない。
 - ⑤インターネット通販をよく利用している。
- といった特徴が分かってきました。

ゲームに込めた思い

そこで、ゲームのねらいを、障害者自立支援

法を背景に、「障がい者自身が金銭管理を行うことにより、自立をめざす」こととしました。親元で暮らす障がい者が多いので、1カ月間の生活にどのような経費がどのくらい必要かをまず知ってもらい、将来的に自立した生活を送るため、また、就労意欲の向上につなげることを目標に制作しました。そして、ゲームと消費者教育副読本による学習をセットにした講座とし、副読本等で契約や食品表示などの生活知識を習得した後で、ゲームによる買い物体験をし、家計簿のつけ方に発展できるように工夫しました。

お金を袋分けしてやりくりを学ぶ

ゲームは参加者全員が相談しながら実践できるように班単位とし、出費予定をカレンダー(図2)で示し、生活費を払いながら進めます。

模擬紙幣を用い、まず2カ月に1回支給される障害年金を半分(1カ月分ずつ)に分け、さらに食費、携帯電話代など必要経費ごとに袋分けをします(写真1)。さらに、1カ月のカレンダーをすごろくに見立て、サイコロを振り、止まったところで買い物カードを引いて出金し、袋からお金が減っていくことを実感してもらいます。余ったお金の「貯金」や「翌月に繰り越す」ことも体験し、やりくり上手をめざしてもらいます。

講座は、えひめ障がい者就業・生活支援セン

ターで2年連続実施され、参加者は各約80名でした(写真2)。また、砥部町保健センターで行われた講座では約30名の参加がありました。

参加者からは、「家計簿の記入に時間がかかった」「計算が難しかった」「短時間で理解がしにくかった」などの感想があった一方で、「無駄遣いをしないように金銭管理をしたい」「家計管理の体験ができてよかった」「今後、袋分けを実践してみたい」「地元産のものを選びたい」など前向きな感想も多く目立ちました。

今後も障がい者の自立支援のために

感想にもあったように、袋分けの演習(家計の成り立ち、金銭の扱い)と買い物体験(家計の運用)が1つのゲームの中で同時に行われたため、ゲームのルールや内容が少し複雑になり、理解が難しい参加者もいて、どうしてもスタッフの補助が必要でした。より簡単に、使いやすい実践的なゲームをめざして、今後も改善を積み重ねていきたいと思っています。

また、電子マネー等も普及してきており、今後新たな金銭トラブルが予想されます。時代の流れに合わせて、現場スタッフの声や要望を聞きながら、障がい者の自立支援の一助となるような教材作りに尽力してまいります。

写真1 模擬紙幣(左)と袋分け(右)



図2 カレンダーがゲームシートとなる

かけいかんり 家計管理ゲーム							
NPO法人えひめ消費者ネット 啓蒙グループのめまろ							
8月の予定 【注意】★のところでは、かならず「ストップ」してください							
月	火	水	木	金	土	日	
				1	2		
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31							

写真2 ゲーム風景

